

日本の社会的連帯経済（SSE）における連帯の基盤を 可視化する調査研究から見えてきたこと

2025年6月8日PARC総会シンポ

藤井敦史

立教大学コミュニティ福祉学部教授・社会的連帯経済推進フォーラム

1) 社会的連帯経済とは何か（前提）

国際的に注目を集める「社会的連帯経済（SSE）」

左は2018年10月に開催されたGSEF2018ビルバオ大会の様子

- 欧州や南米を中心に進む「社会的連帯経済」の制度化（2011年スペインで社会的経済法、エクアドルで民衆連帯経済法、2012年メキシコで社会的連帯経済法、韓国で協同組合基本法、2013年ポルトガルとカナダ・ケベック州で社会的経済法、2014年フランスの社会的連帯経済法の成立、**国連でも2013年にILOや社会開発研究所などが主導する社会的連帯経済タスクフォース（TFSSE）が成立**）
- 国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発のための2030アジェンダで提起された「貧困の撲滅」中心とする17の目標）の重要な担い手として期待される「社会的連帯経済」

👉2023年4月18日の国連決議「持続可能な開発のためのSSEの促進」

- GSEF2018ビルバオ大会：世界中から1,700人もの参加者が集まり、韓国、フランス、スペイン、カナダを中心に多くの地方自治体の首長が社会的連帯経済の促進をアピール



社会的連帯経済（SSE）：多様な社会運動をつなげる言葉

①用語自体の多様性

- ☞ Social **and** Solidarity Economy（フランス）
- ☞ Social Solidarity Economy（カナダ・ケベック→RIPESS）
- ☞ Solidarity Economy（南米、北米）
- ☞ Social Economy（韓国）

②組織概念としての社会的経済×運動概念としての連帯経済

- ☞ 社会的経済は、協同組合・共済組合・アソシエーション（NPO）という **組織の集合**
- ☞ 連帯経済は、新自由主義的な資本主義に対抗する **オルタナティブな経済を志向する運動**
- ☞ 協同組合は公共性を発揮できるか、大規模化・市場化された協同組合が運動に立ち戻れるかという問い

③国や地域で異なる文化的・思想的・宗教的背景→連帯の基盤

- ☞ ブラジルの民衆教育、米英のコミュニティ・オーガナイズング、ブエン・ビビール、カソリック等

※ **オルタナティブな経済を志向する多様な社会運動**を結び付ける言葉としての魅力

社会的連帯経済（SSE）を簡単に説明すると…

「顔の見える連帯関係を基盤に、他
者や自然に対するケアや責任を取り
戻し、コモンズと共に自治的なコ
ミュニティを再生することで、生命
や生活を支えるサブシステム・エ
コノミーを創出する運動」

①合成語としての社会的連帯経済（以下の掛け合わせ）

- 組織概念としての「社会的経済」
- 運動概念としての「連帯経済」

②新自由主義へのオルタナティブを志向する幅広い運動包摂

- FEC自給圏構想（内橋）、コミュニティ経済（広井）etc.

③民主主義や自治を孕んだ経済

- 政治民主主義と基盤となる経済民主主義

◆社会的連帯経済という言葉が孕んでいる問い

- 協同組合は運動性を取り戻せ
- 閉鎖的な共益性を超えて地域を基盤とした公共性の構築
- 大きな協同と小さな協同（W.CoやNPO）の連帯
- 大規模な協同組合が「CSR的にSDGsやります」じゃない！

2) SSEマッピング調査

経緯と目的

社会的連帯経済推進フォーラムのミッションとしてのマッピング調査



日本における社会的連帯経済の実践と研究の交流を目的として

社会的連帯経済推進フォーラムからのお知らせ

社会的連帯経済推進情報



2022年第 第十一回総会のご案内



「社会的実践のしごとと役割」発行記念会（参加費無料）



東京地区「いかにあひまをくむか」に行ってきました！



福岡県立大学生協「日本社会連帯経済」ワークショップ開催
会（全4回）

◆藤井敦史編2022『地域で社会をつくり直す社会的連帯経済』彩流社（次頁）

- 2005年に設立した前身である社会的企業研究会の長年の研究蓄積の成果：
- SSEの国際潮流を背景に理論・制度・協同労働、生活困窮者支援の現状など
- ・ 浮かび上がってきた重要なミッション

◆日本の社会的連帯経済（SSE）を可視化するためのマッピング調査

- 日本のSSEに関する個別の事例や領域は見えているものの、それらを包括的に捉え、日本のSSEの特質・課題を明らかにする試みの欠如
- しかし、日本のSSEを可視化することで、個別の領域を越え、実践と研究の枠を超えたSSEの包括的ネットワークを形成することが可能なのではないか？
- SSEが政治的なパワーを構築し、適切な制度環境を作り出す基盤
- 加えて、RIPESSのマッピングにも呼応して国際発信可能

藤井敦史 編著

地域で社会的 つながりを つくり直す 社会的 連帯経済



エンパワーメントと社会再生の拠点、
主体としての市民がつくる
自治的な地域コミュニティはいかにして作れるか。
新自由主義に対するオルタナティブな経済のあり方とは

実践現場
からの報告

彰流社

序章：なぜ社会的連帯経済なのか（藤井敦史）

1章：社会的連帯経済とは何か（藤井敦史）

第2章：イタリアにおける社会的企業の展開過程（田中夏子）

第3章：社会的連帯経済を推進する世界の運動（田中滋）

第4章：不安定社会の編み直しを求めて（菰田レエ也）

第5章：労働者協同組合の社会化戦略（相良孝雄）

第6章：地域再生政策における連帯的な経済の可能性と課題
（原田晃樹）

第7章：公的サービスの外部化と非営利組織の評価（原田晃樹）

第8章：私たちが韓国社会的経済から学んできたことは何か
（藤井敦史）

座談会：社会的企業研究会のこれまでとこれから

社会的連帯経済推進フォーラム ミッション・ステートメント

今日の資本主義経済システムは、国家が自らその機能を切り崩し、市場原理にゆだねる新自由主義的政策を通じて、国内外の資本移動を加速させ、あらゆるものを商品化することで、貧困や格差、社会的孤立や分断、気候危機をはじめとする地球環境破壊を誘発し、私たちの暮らしを根底から揺るがしています。

しかし、グローバルに離床した歯止めの効かない経済構造をもう一度社会に埋め込み直すため、社会的連帯経済の運動が多様な形で展開しています。すなわち、地球の生命や人びとの持続的な生活を守るため、地域における相互扶助やコモンズを再生するとともに、旧来の国家や自治体区分にとらわれない連帯を紡ぎ、人間の身の丈に合った手触りのある経済循環の構築に向けた試行錯誤が生まれつつあるのです。

私たちは、以上のような社会的連帯経済の運動の一翼として日本と世界でその促進のために、以下の具体的な目標を追求していきます。

- 1) 日本にも多様な社会運動の潮流を基盤に、実際には、多くの社会的連帯経済の事例が存在します。そうした日本の社会的連帯経済の事例を数多く発掘し、マッピングすることで、日本の社会的連帯経済を可視化します。
- 2) 社会的連帯経済に関わる多くの実践家や研究者が相互に交流し、各々の現場や学問分野で培ってきた実践的なノウハウや思想を相互に学び合い、深めていくことで、社会的連帯経済の担い手（を志す・志向する人、共感する人）を増やし、エンパワーメントすることが可能な「実践的研究フォーラム」を目指します。
- 3) 国際的な社会的連帯経済運動や日本における社会的連帯経済の実態から学ぶことを通して、日本における社会的連帯経済の認知を高め、社会的連帯経済を促進するための実践的なノウハウを蓄積し、かつ、政策や制度の構築（提案）を目指します。

日本の社会的連帯経済（SSE）を可視化する

社会的連帯経済推進フォーラムでのマッピング調査開始



特集 社会的連帯経済の実践から次なる社会を考える



ブラジルのサン・カルロス大学には、連帯経済のインキュベーションセンター（左下写真）が設けられており、農園地域に入って住民が自主運営を行う民衆協同組合やコミュニティ農園などの立ち上げを支援している。右下の写真は、協同協同組合「コーペラシズ」の設立総会の様子。上の写真はサンパウロ市のアタロイコローラ都市コミュニティ農園「ジェラ・ジュンカス」。

一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF COOPERATIVE RESEARCH

- 日本には、実は、豊かな社会的連帯経済が存在
 - 全労済協会の公募委託研究による資金助成を得てマッピング調査開始
 - 『協同の発見』誌における連載「社会的連帯経済まんだら」
 - 固有の歴史的文脈や地域文化を背景とした個々の事例の魅力
 - 一方で多様な社会運動の地下水脈でのつながり…だから「曼荼羅」
- SSEマッピング委員会での事例選定
 - 多様な研究者や実践家の参加したSSEマッピング委員会
 - 既にある現場とのつながりを基盤に、いわゆるスノーボール・サンプリング
- 目指すは日本の社会的連帯経済を可視化しプラットフォームを作ること
 - 事業領域の違いや都市／農村の違いを超えた豊かな交流と学びの基盤
 - これまでの事例：地域協同組合無茶茶園・暮らしづくりネットワーク北芝・ひとつむぎ・やなマルシェ・たよりジョーズたよられジョーズ（地域通貨）・東京都ソーシャルファーム条例の課題・韓国自活企業働き場インテリア・英国West Silvertown Community Foundation
 - 今後も継続的に事例を増やしつつ、『協同の発見』の共同連載で発表（最低でも100事例）
- 演繹的ではなく帰納的に日本の社会的連帯経済を重層的に明らかにして、実践的な政策提言を！

成果報告書の構成

1) SSEマッピング調査の経緯と目的（藤井敦史）

2) 各種事例報告

①連帯のるつぼ―地域協同組合無茶々園（藤井敦史）

②部落解放運動を基盤とした社会的連帯経済の展開（竹内友章）

③愛知におけるやなマルシェとケアセンターほみ（藤井恵里・藤井敦史）

④鳥取の地域再生の取組み（菰田レエ也）

⑤地縁的關係と共同売店―狩俣地域での取組みから（走井洋一）

⑥社会的連帯経済から見た韓国の自活企業（イ・ヘリン）

3) まとめ：日本の社会的連帯経済の特徴をどう考えるか（藤井敦史）

2) 事例報告—無茶々園を中心に

連帯のるつぼ：地域協同組合無茶々園

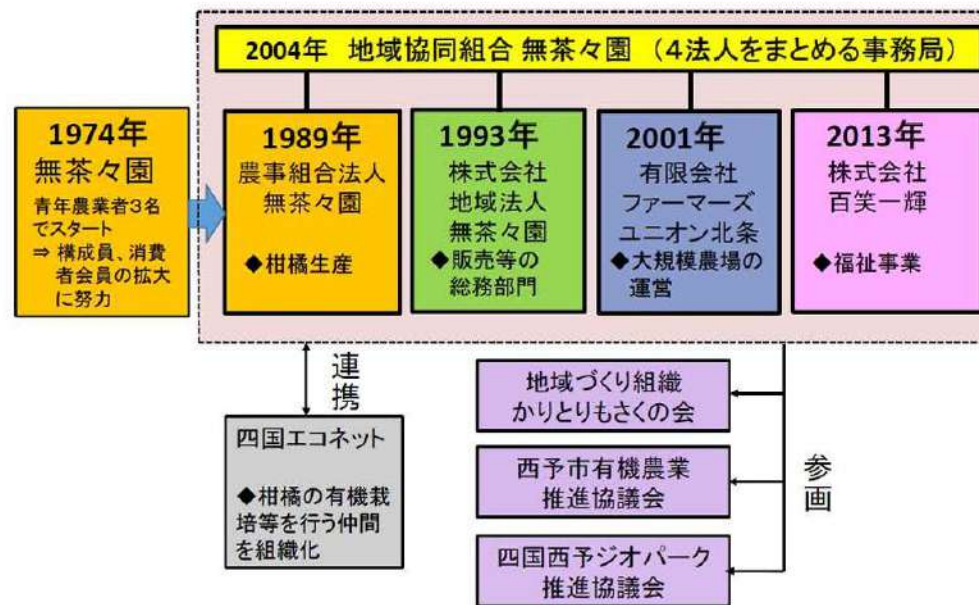
愛媛県明浜町狩江地区は、典型的なリアス式海岸で海と山が近い地域である。そこに、「天まで届く」蜜柑の段々畑の風景が広がっており、これが、この地域の原風景であり、これ自体がある種の commons と呼べる。また、奇祭と呼ばれる春日神社の牛鬼の祭祀のように、伝統的な地域文化（宗教文化）が色濃く残る地域でもある。



「近代的農業」の矛盾に向き合う中で農家の跡取り3人が 有機農業を開始して無茶々園を創設



無茶々園創始者の一人、片山元治さん



地域協同組合無茶々園の組織構成

(出典) 天皇杯農林水産大臣賞受賞団体・地区の取組概要「地域協同組合無茶々園」
<https://www.maff.go.jp/chushi/kyoku/muradukuri/attach/pdf/28mura-1.pdf>

二つのDNA：有機農業運動と協同労働

● 有機農業運動の「提携」の理念

- 社会的連帯経済のCSAの源流
- 有機農業研究会の一樂照雄氏との出会い
 - ・ 生産者と消費者の人格的信頼関係
 - ・ 生産者のコストや生活保障を考慮した価格
 - ・ 環境に配慮した持続可能な農業
- 無茶々園のミッション構築

● 相互扶助の伝統の延長上にあった協同労働

- ・ 1995年に日本労働者協同組合連合会に加盟
- ・ 代表取締役の大津氏は1998年から3年間出向
- ・ 生協や農協の抱えている本質的な矛盾の認識
- ・ マルチ・ステークホルダー協同組合を志向
- 地域協同組合（コミュニティ協同組合）

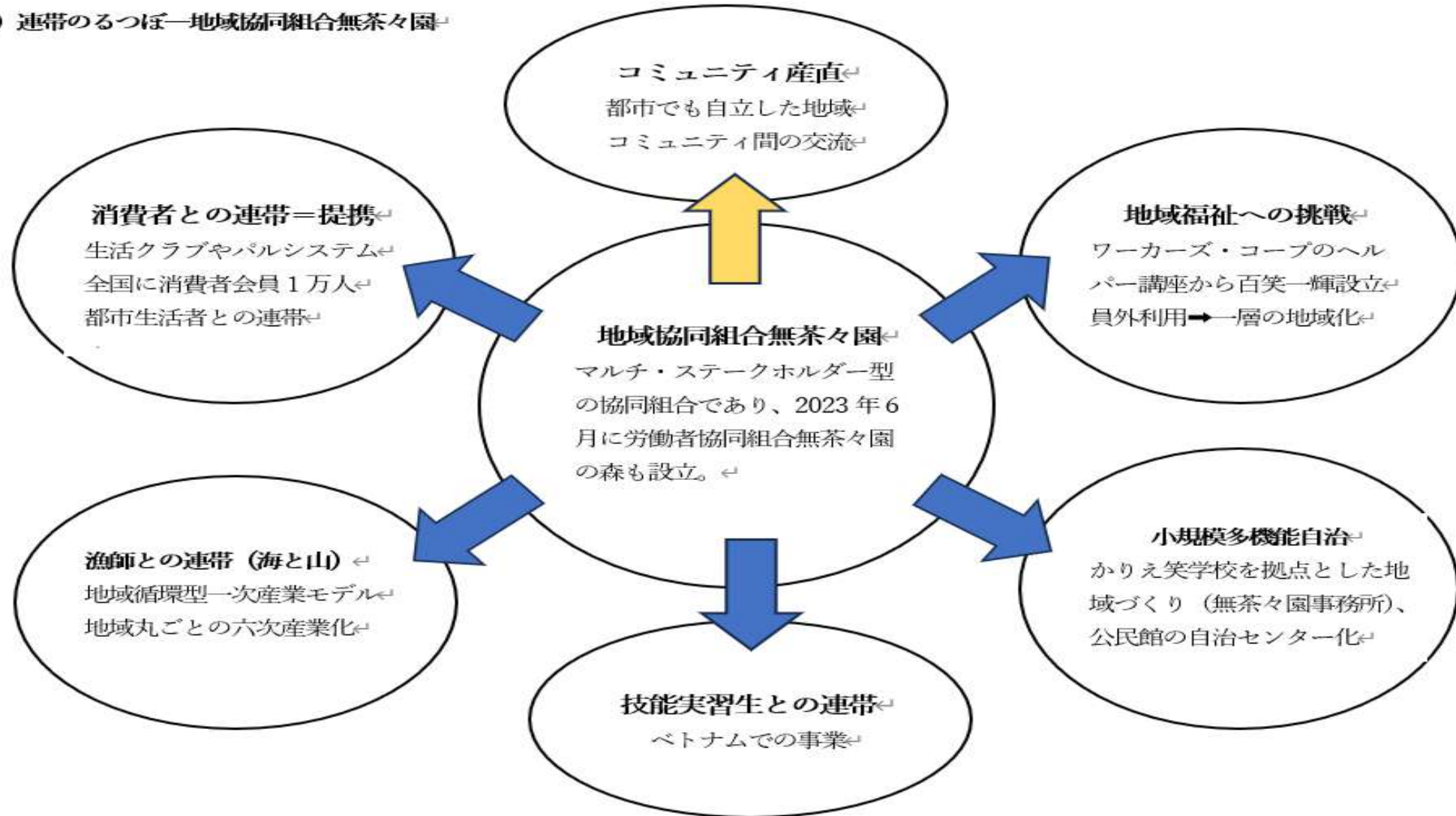
そもそも、田舎ってというのは、ほとんど、ある種の協同組合。結いや講の世界。ただ、生協も農協も、職員は組合員ではないので、決まったことを実行するだけで、これって違うのではないかと思った。だから、無茶茶園にも、労働者協同組合を取り入れるべきだということがあった。そして、地域協同組合は、皆が出資をして、運営にも関与する（議決権も皆ある）。だから、農協も生協も、その部分は考えるべきだということを、この間提案している。

（大津清次氏のインタビューから）

なぜタイトルを「連帯のるつぼ」としたか？

実質的なコミュニティ協同組合&地方（生産）と都市（消費）の連帯

(図) 連帯のるつぼ—地域協同組合無茶々園



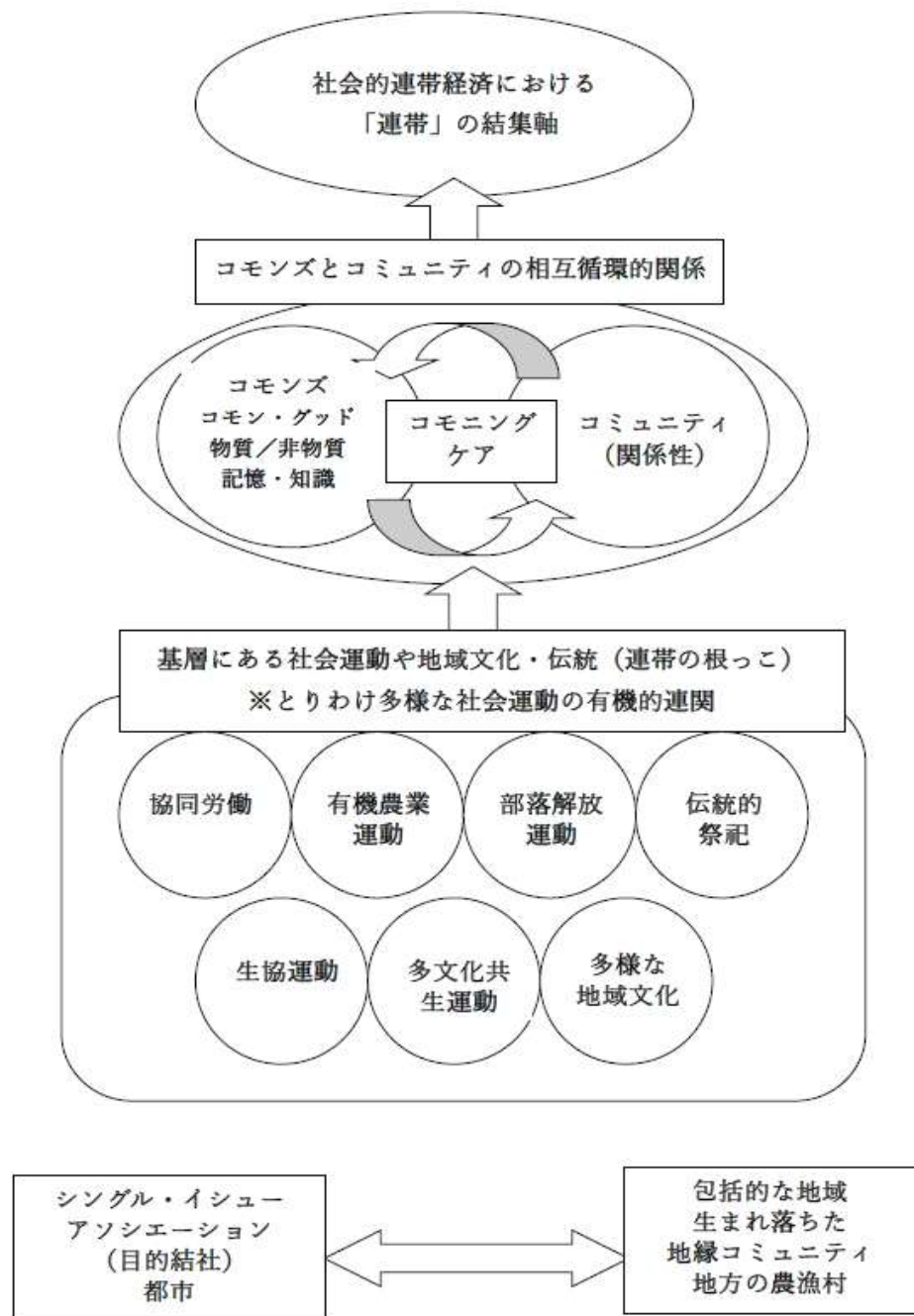
無茶々園をどう解釈するか？

地方（生産）と都市（消費）の間の連帯の条件



- 依存先の多様性：生活クラブやパルシステムといった生協との継続的な相対取引と同時に1万人以上の消費者会員
 - 強力な支持層（贈与の基盤）、対等性・独立性とリスク分散
- 運動性と同時に優れた事業性
 - 品質の良い柑橘類を選別する光センサー（左）
 - 個々の有機農家に対するフィードバック学習の基盤
- 地域ニーズに沿った地域おこし協力隊
 - 住民組織「かりとりもさくの会」が役所に提案
- 外部から新規就農者を受け入れる「てんぽ印」
 - 優しい農業・参加しやすい農業の推進→新しい農の営み
- ◆ 「新しい内発的发展論」（小田切徳美）なのか？
 - 閉鎖性を乗り越え、外との連携（関係人口の拡大）を基盤に開放的な地域コミュニティを作り出す実践

3) まとめ：日本の社会的連帯経済 その特徴と捉え方について



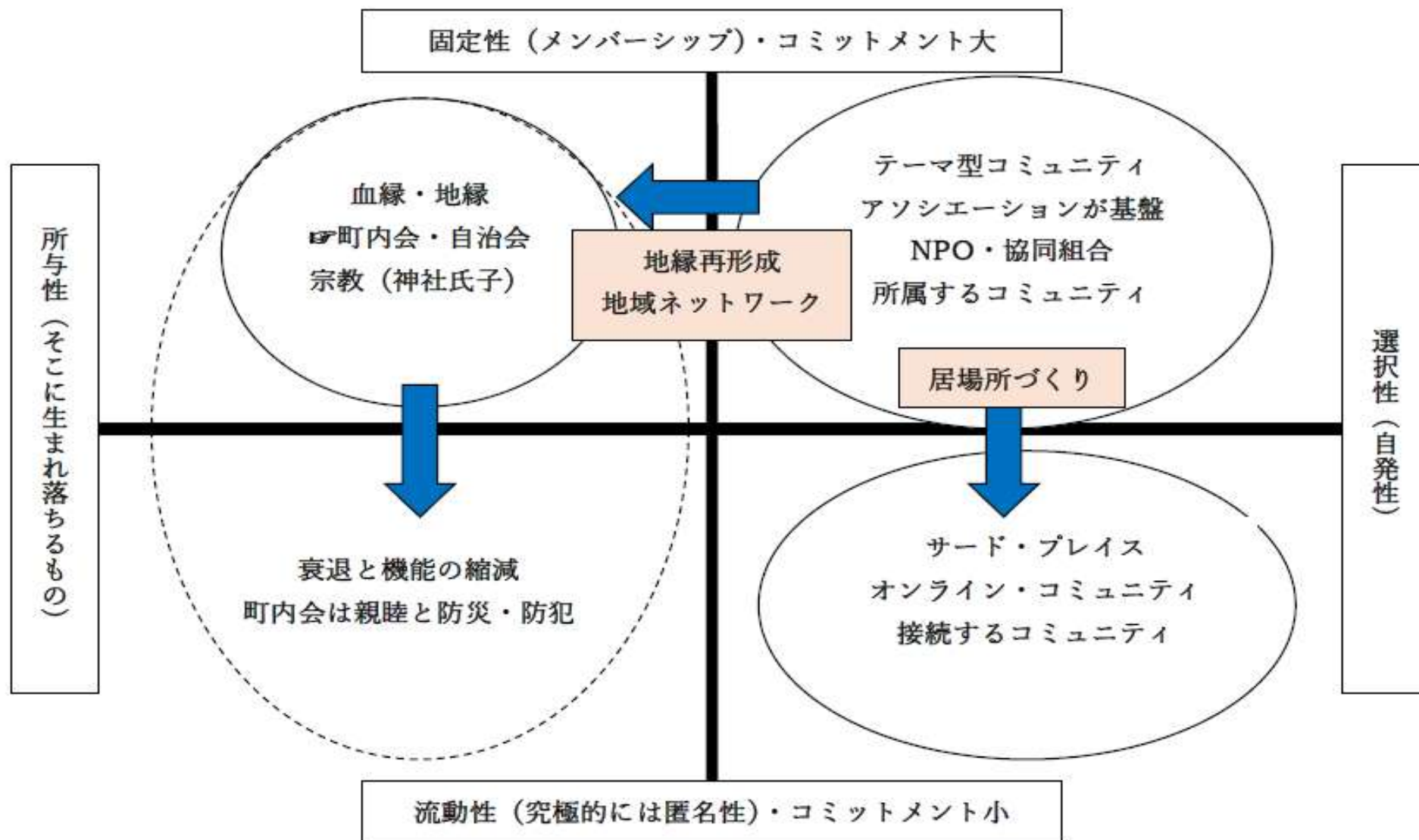
試論：方法としての「コモンズ」

- 社会的連帯経済の「連帯」の基盤には何らかの守るべき（ケアすべき）多様なコモンズが存在
 - ・「連帯」の結集軸であり、かつパワーの源泉
 - 沖縄共同売店：地縁組織の所有する共有地
 - 北芝・富田：部落解放運動にけるCOの技法
- コモンズの基盤には多様な社会運動や地域文化の歴史的コンテクストが存在
 - 集合的アイデンティティ（We）の形成
- 社会的連帯経済における連帯関係の分類
 - ① アソシエーション＝選択縁（都市）
 - ② 生まれ落ちた地域コミュニティ（地方）

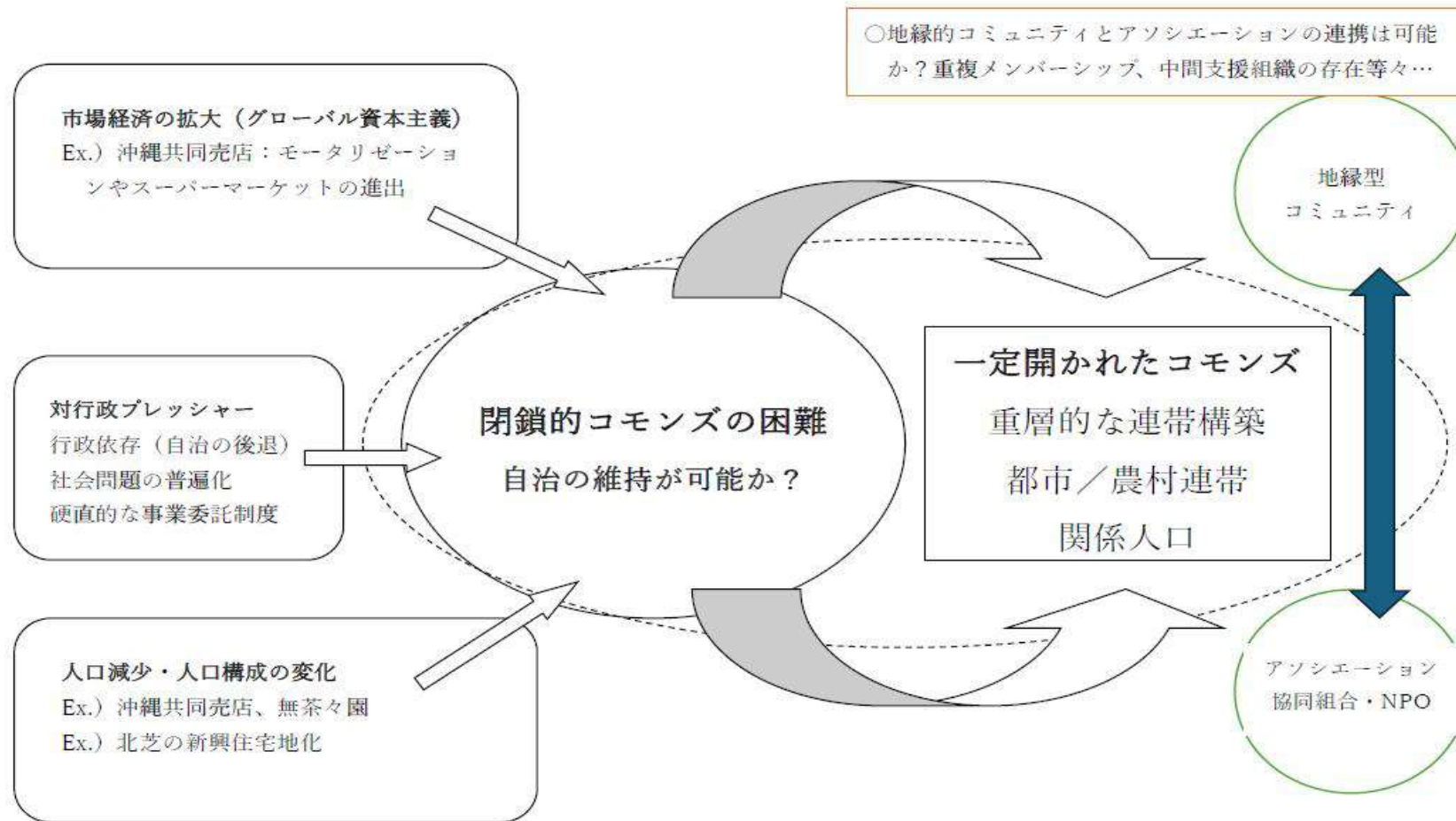
※二つのベクトルの存在

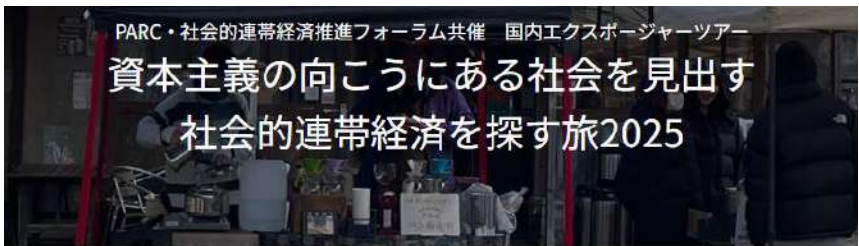
 - アソシエーションから地域コミュニティが派生
 - 地域コミュニティからアソシエーションが派生

現代的コミュニティの類型（試論）…生活全体を包摂する緊密型コミュニティ（close-knit community）の衰退を前提として



異なるコミュニティ間の連帯は可能か？ 閉鎖的コモンズを一定外に開いていくことは可能か？





PARC・社会的連帯経済推進フォーラム共催 国内エクスポージャーツアー 資本主義の向こうにある社会を見出す 社会的連帯経済を探す旅2025

2023年4月、国連本会議にてSDGsの達成にはこれまでの資本主義に基づいた経済母体ではなく「社会的連帯経済」が必要不可欠であることが認められました。日本において「社会的連帯経済」という単語は耳慣れないかもしれませんが、それを体現した取り組みは実にすでに各地に点在しています。

今年は「国際協同組合年」。資本主義とは違う価値に重きを置いた事業体を国際的に再評価するための年でもあります。労働者協同組合や事業型NPO、一般社団など、その担い手の法人格は様々ですが、資本主義では解決できない社会課題を解決するために、異なる価値観を紡ぎだしている運動の現場を訪れ、オルタナティブな社会のあり方を一緒に学びませんか？

【共催】アジア太平洋資料センター（PARC）・社会的連帯経済推進フォーラム

【後援】2025国際協同組合年後援事業



社会的連帯経済を探す旅2025_北芝・富田

¥40,000~¥70,000

地域通貨の活用や、地域の変化に伴う雇用創出なども試みる北芝。貧困・教育格差に住民連帯で取り組む高槻富田。どちらも被差別部落による差別に抵抗する運動を背景に、地域で支え合い、だれもが安心して暮らし続けられるまちづくりを展開してきました。大阪の2つの地域をまたがって訪問します。

選択する

数量

1

カートに入れる



社会的連帯経済を探す旅2025_麦の郷

¥62,000

障害者支援から始まり、社会問題に直面している当事者を軸にしたコミュニティを形成し、地域農業支援も展開する。「ほっとけやん」ネットワークが生まれる経済の現場を訪れます。

選択する

数量

1

カートに入れる



資本主義の向こうにある社会を見出す

社会的連帯経済を探す旅2025

2023年4月、国連本会議にてSDGsの達成にはこれまでの資本主義に基づいた経済母体ではなく「社会的連帯経済」が必要不可欠であることが認められました。日本において「社会的連帯経済」という単語は耳慣れないかもしれませんが、それを体現した取り組みは実にすでに各地に点在しています。今年は「国際協同組合年」。資本主義とは違う価値に重きを置いた事業体を国際的に再評価するための年でもあります。労働者協同組合や事業型NPO、一般社団など、その担い手の法人格は様々ですが、資本主義では解決できない社会課題を解決するために、異なる価値観を紡ぎだしている運動の現場を訪れ、オルタナティブな社会のあり方を一緒に学びませんか？ 《2025国際協同組合年後援事業（申請中）》

+++++

●【大阪】北芝（NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝）、高槻富田（一般社団法人タウンスペースWAKWAK）

地域通貨の活用や、地域の変化に伴う雇用創出なども試みる北芝。貧困・教育格差に住民連帯で取り組む高槻富田。どちらも被差別部落による差別に抵抗する運動を背景に、地域で支え合い、誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを展開しています。大阪の2つの地域をまたがって訪問します。

【事前学習】7/3(木)19:00~ ※オンライン

講師：竹内友章（関西福祉科学大学社会福祉学科講師）

【現地訪問】7/19(土)~21(月・祝)

（プログラム（予定））北芝フィールドワーク、北芝×富田クロストーク「部落解放運動を基盤に多様な協働を展開するまちづくりの戦略（仮）」、高槻富田フィールドワーク など
参加費(2泊3日)：北芝宿泊（コミュニティハウスで相部屋）=50,000円/ホテル（シングル）=70,000円 宿泊なし=40,000円

●【和歌山】 麦の郷（社会福祉法人一麦会）

障害者支援から始まり、社会問題に直面している当事者を軸にしたコミュニティを形成し、地域農業支援も展開する。「ほっとけやん」ネットワークが生まれる経済の現場を訪れます。

【事前学習】8/4(月)19:00~ ※オンライン

講師：藤井欽史（立教大学コミュニティ福祉学部教授／社会的連帯経済推進フォーラム運営委員／一般社団法人協同総合研究所常務理事／PARC理事）、野中康寛・湯浅雄偉（社会福祉法人一麦会）

【現地訪問】9/13（土）~15（月・祝）

（プログラム（予定））社会福祉法人一麦会・megluck・創カフェ、ゆめ・やりたいこと実現センター・ソーシャルファームもぎたて見学、調養「紀ノ川農道と麦の郷の関わりについて」「発達障害の運動について」 など
参加費(2泊3日)：62,000円

【共催】アジア太平洋資料センター・社会的連帯経済推進フォーラム sse.jp.net



《お申込み・お問合せ》
アジア太平洋資料センター（PARC）
TEL.03-5209-3455 FAX.03-5209-3453
E-mail: office@parc-jp.org parcfs.org



社会的連帯経済推進フォーラム
Japan Forum for the Promotion of Social Solidarity Economy

